

大分市立下郡小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	夢に向かい、学び合い、認め合い、鍛え合う主体的に生きるこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	・基礎的・基本的な力を確実に身に付ける ・身に付けた力を生かし、自分で考え、判断したり表現したりする ・自分から進んで学び、粘り強く挑戦する

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○学年全体の平均正答率では、どの教科も概ね学習内容の定着ができています。しかし、個人差がある。 □無解答や、時間配分がうまくいかずに最後の問題まで取り組めていない児童がいる。 □段落数や文字数、使う言葉などの条件にそった文章を、書けない児童が多い(6年)。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○授業内容が「分かった」、「できた」と肯定的に感じている児童が多い。しかし、個人差がある。 □自分の考えを伝えることが苦手な児童がいる。 □学習活動でICT機器を十分に活用できていない(6年)。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○ワークシートの工夫やICT機器の活用等、考えを文章で表す活動を続けたことで、文章を書くことへの抵抗感は減り、自分の考えを進んでノートに書けたと肯定的に捉えている子が多い。 ○知識・技能の観点では、スモールステップの指導、個別の指導に加え、高学年での教科担任制にも慣れ、学習内容の定着が図れている。 ○算数の文章問題では、線分図や数直線を立式の際の根拠として、系統的に利用できるように引き続き指導したことが、日々の授業に生かされた。 ○考えを交流する方法を工夫して行うことで、自分の考えや理解を深めることができた。	
指導の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○考えを伝え合う活動では、ノート交換、ロイロノートなどのICT機器やホワイトボードの活用で意見の交流を図るとともに、ペアやグループでの話し合い活動を継続して行い、学習内容についての理解を深めることができた。 ○繰り返し確認できるように既習事項を掲示したり、電子黒板などを用いて問題の提示や考えの共有を図ったりした。 ○低学年では、教材教具を工夫し、視覚的に分かりやすい指導を行うことで、「分かった」「できた」と実感できる授業づくりができた。また、こどものつまづきを想定した授業プリントを作成し、問題に取り組ませた。 ○中学年では、文章を読むのが苦手な子に対して電子黒板に問題文を映して読み上げたり、つまづきがある単元では、個別の指導を行ったりした。また、考えを広げたり深めたりするために、考えを視覚化したりペア活動やグループ活動を効果的に取り入れたりした。 ○高学年では、学習内容を焦点化するとともに、短く具体的な指示や授業の流れのパターン化を行うことで、見通しをもって学習に取り組めるようにした。また、教科担任制を導入し、教材研究を深め、指導方法の改善・工夫ができ、効果的な指導ができた。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○家庭学習では、ドリル学習だけでなく週末課題の工夫で思考力をはぐくむ学習が行えた。また、中学年以上では、自主学習の内容が充実するように学年に応じた指導を行った。 ○学校図書館の利用を積極的に取り入れ、読書量の向上と読書の段階に合った質の向上を条件を決めるなど、さらに指導を行っている。 ○週末課題で初見の物語文などのプリントを出し、読み取りの力を付けさせていくようにした。また、文章題のプリントを出し、立式の際の根拠を正しくもたせるようにした。 ○電子黒板等のICT機器を活用して、視覚的に分かりやすく理解できるような工夫をしている。また、学習のつまづきがある子に個別の支援を行っている。 ○学習内容を習熟させるため、単元テストの前に復習の時間を設けたり、学習内容のたしかめプリントに取り組ませたりしている。	

学力に関する達成指標

児童アンケートで『授業で「分かった」「できた」と感じる事ができた』と答えるこどもを90%以上にする。

今後の 具体的 な取組	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 ○主体的・対話的に学べる授業づくり ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 ○「めあて」と「振り返り」、「課題」と「まとめ」の呼称関係を大切にする。 ○課題を位置付けるまでの「こどもの問い(問題意識)」を大切に(こども主体の学習) ○課題解決の場面において、「自分の考えをかく(書く・描く)」「自分の考えを説明する」「友だちの考えを理解する」活動を重視する。 ○心理的安全性を確保し、人的環境を整え、刺激を調節した分かりやすく学びやすい環境をつくる。	〈家庭・地域の取組内容〉 家庭 ・親子でメディアコントロールに取り組む。 ・家庭学習、読書の習慣を身に付ける。 地域 ・ゲストティーチャーとして協力する。
	〈取組指標〉 ○課題が位置付くまでの過程を工夫し、「こどもの問い(問題意識)」を引き出しながら、こどもの声から「課題」を引き出す授業づくりをする。 ○解決のための手掛かりをこどもの声から引き出し、課題解決ができそうだという解決のための見通しをもたせる場を位置付ける。 ○共感的に理解することのよさや喜びを体得させるため、友だちの考えを聞く、読み取る、伝え合う場を設定する。 ○自己決定する力を育むために、自分の学びをまとめる、振り返る場を設定する。 ○こどもの学びやすさの向上のため、見やすい色づかいの板書をしたり、簡潔な指示をしたりする。 ○安心して学べるように、間違いから学んで解決したり、共感をひろげる声掛けをする。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・学習時間を確保し、自ら学ぶこどもを育てる。 ・規則正しい生活習慣を身に付ける。
	〈検証指標〉 ・「自分の考えを進んで書くことができた」と答えるこどもを90%以上にする。 ・「進んで考えを伝え合うことができた」と答えるこどもを90%以上にする。 ・「分かった・できた」と答えるこどもを90%以上にする。 ・単元テストを行い、国語・算数のテストの「思考・判断・表現」で80点以上の達成者を80%以上にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 ・毎日決められた時間(学年×10分+10分)、家庭学習に取り組んでいるこどもを85%以上にする。 ・メディアコントロールを行い、生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が定着しているこどもを80%以上にする。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○9年間を見通した家庭学習の指導をすることによって、こどもたちが学年に応じた家庭学習時間を確保する。 ○校時表の見直しを行い、週2回の学年会の時間を確保する。そのうち1回を学年での教材研究の時間として設定する。 ○各教科等の学習で学校図書館の蔵書を積極的に活用する教材研究を行い、資料センターとしての学校図書館機能の充実を図る。 ○低学力層の児童に対しては、隙間時間での補助学習を行うことで授業内容の理解を深めさせる。	